

2024年10月26日

懐徳堂 300 周年記念シンポジウムに参加して

理事長 猪谷 義弘



左から 門脇むつみ氏・ロバート キャンベル氏・鷺田 清一氏・飯倉 洋一氏



鼎団 阪大中之島センター10階 佐治敬三メモリアルホール

ONCC「総合文化を学ぶ科」懐徳堂記念会の協力を頂いている懐徳堂の創立300周年記念シンポジウム&レセプションのご案内を頂き参加させて頂きました。

13期の講座で講義依頼の伊藤・岡島・栗原・門脇・市・伴瀬各教授にお会いすることができ、改めてご挨拶をさせて頂きました。

懐徳堂 300周年記念シンポジウム

大阪文化の過去・現在・未来 懐徳堂から大阪大学へ

登壇者プロフィール

ロバート キャンベル（早稲田大学特名教授・日本文学）

ロシア文学研究者。早稲田大学特名教授。早稲田大学国際文学館(村上春樹ライブラリー)顧問。国文研究資料館館長。東京大学名誉教授。近世・近代日本文学が専門で、特に19世紀(江戸後期～明治前半)の漢文学と、それに繋がる文藝ジャンル、芸術、メディア、思想などに関心を寄せている。テレビMCやニュース・コメンテーター等を務める一方新聞雑誌連載、書評、ラジオ番組企画・出演など、さまざまなメディアで活躍中。

鷲田 清一（わしだ きよかず）（大阪大学元総長・哲学）

哲学者(臨床哲学・倫理学専攻)。関西大学教授、大阪大学教授、大阪大学16代総長、京都市立芸術大学理事長・学長などを歴任。現在、せんだいメディアテーク館長、サントリー文化財団副理事長。著書に『現象学の視線』『モードの迷宮』『メルロ＝ポンティ』『「聴く」こと力』『「待つ」ということ』『哲学の使い方』『つかひ●使用論』『所有論』など。サントリー学芸賞、桑原武夫文芸書、読売文学賞受賞。

飯倉 洋一（いいくら よういち）（大阪大学名誉教授・日本近世文学）

日本の文学研究者（近世文学）。山口大学教授、大阪大学教授などを歴任。現在、大阪大学名誉教授・大阪大学招へい教授。江戸時代の文学について、京阪のものを中心に、上田秋成、奇談、学芸に関わる人たちの交流など、多角的に研究している。また、くずし字教育の普及、デジタル文学地図の作成、古典文学の持つ力の発信などに関わっている。著書に『秋成考』『上田秋成、絆としての日本文芸』『アプリで学ぶ崩し文字』『くずし字学習支援アプリ KuLa の使い方』など

モデレーター

門脇 むつみ（かどわき むつみ）（大阪大学大学院人文研究科教授・日本美術史）

以上、本日のプログラム中の登壇者プロフィールより

基調講演(ロバート キャンベル氏)

懐徳堂の創立は、享保8(1832)年の大塩平八郎の乱日手記録から、さまざまな災禍見聞の記録についての講演で、大火災により大阪町人の学び処 **懐徳堂** が創立 300 周年を迎え、「災禍見聞の文芸と思考」と題し大塩の乱など前近代大阪における都市災害の表象と記憶についての講演でした。

講演後引き続き鼎団

(ロバート キャンベル氏 × 鷲田 清一氏 × 飯倉 洋一郎氏)

モデレーター(門脇 むつみ氏)

「文化の継承について」

大阪大学は我が国第6番目の帝国大学として1931年に創設されました。しかし、大阪大学の原点は緒方洪庵が1838年に設立した適塾に見いだすことができます。緒方洪庵の弟子や息子を中心として明治新政府により1869年に設立された大阪仮病院や大阪医学校が幾多の変遷を経て、1931年に医学部と理学部の学部からなる大阪帝国大学が創設されました。司馬遼太郎が長編歴史小説『花神』の冒頭に「『適塾』という、むかし大坂の北船場にあった蘭医学の私塾が、因縁からいえば国立大阪大学の前身ということになっている」と記しています。大阪大学には緒方洪庵の「人のため、世のため、道のため」という精神と大阪府民の学問への思いが受け継がれています。商人、市民の寄付のお陰で設立出来たとの事でした。

また、東京、京都と違った大阪の良さや、芸術(絵画)でも京都大阪では画風が違う・・・大阪は商いに関連した絵が多い・・・笑い 又、懐徳堂記念会会員の各企業の皆さんは日本でも一流企業の方々でこのような会の末席に加入させて頂いていることに改めて「ONCC総合文化を学ぶ科」で懐徳堂記念会協力講座の科名を名乗らせて頂いていることに身の引き締まる思いをしました。これからも受講生の皆さんに喜んで頂ける講座が継続できることを願っています。

最後にレセプションでは冒頭でも述べさせていただきました第13期「総合文化を学ぶ科」各講師とお会いすることが出来有意義な時を過ごさせて頂いたことを報告させていただきます。



レセプション 中之島美術館 1階カフェレストラン「ミュゼカラト」

認定NPO法人 大阪府北部コミュニティカレッジ
理事長 猪谷 義弘